





使用心得

- 一、文字を正しくはつきり書きなさい。
- 二、句讀点（、）を正しくつけなさい。
- 三、書いてから、よく読んでみなさい。
- 四、無駄のないやうに使ひなさい。
- 五、よく工夫して、ためになるやうに使ひなさい。





三月十日(土)晴風(陸軍記念日)  
 今日朝からとても風が強かった。六年  
 生の方が東京へお歸になつた。朝會  
 が終るとすぐ出發なされた。私たち  
 は何度も何度もさやうなうを言つて  
 別れを惜んだ。がんばれーとか、お  
 元氣でーとか、張切れーなど聲をか  
 ぎりに叫んだ。何だかとてもさみしい。  
 六年生の方がいらつしやうなくなると  
 私たちは午前中大掃除だつた。女學  
 校へ行つてすぐ荷物のせいとんをした  
 それから先生がきれいいにはいて下さ  
 った。お部屋の中が見ちがへるほど



高田先生や三年生といつしよに行つた。松ぼっくり、小枝など、  
 たくさん落てゐた。河井さんとたんかを持つて皆のゐる所へ  
 歸つてこやうとするとどこへ行つたらよいのかわからなくなつ  
 てまひ子になつてしまつた。林の奥で高田先生のお聲がし  
 たので聲をたよりに行つた。たんかに枯枝をのせてみんなで  
 歸る途中警戒警報になつたので急いで疎開學園に行つた。  
 午後日向で日記を書いた。風もあまり當らなくて日がほか  
 くと照つてゐるのでとても日記がはかどつた。夕食はお部屋  
 の中でいたがいた。おいしいカレーだつた。

三月十一日 (日) 晴風

今日はいよいよ特ちに待つた面會日。朝うす暗いうち  
 に目がさめてゐた。さうしてとても起床がおどいやう

たのしい面會



に思へた。朝會のすぐあとで頭洗  
 ひをした。頭が痛くなるほどこすつ  
 た。毛がずぬぶぬぬけてしまつた。風  
 が強く寒かつたので頭布をかぶつて  
 みた。しばらくすると警戒警報  
 が發令された。私はせつかくの面會  
 目こんな警報が出て、しやくだなど  
 と思つた。でもお母様のお姿を見た  
 時にはほんたうにうれしかつた。やが  
 てかいよされた。私はすぐ机を運  
 んで女學校の方へ走つて行つた。  
 すぐ荷物のせいりや、シーツのとり  
 かへをした。着がへをしてゐると太



こが鳴ってしまった。着がへをしたうさつはりしてとても  
氣持がよかつた。食器は岡見さんが洗つて下さつた。又  
午後警報が発令された。でもちきかいよされた。女學校  
へとんで行くと、お母様にお姉様のお寫眞を見せてい  
ただいた。頭にパーマネンドをかけていつも着ておない着  
物を着て、これがミッゴ姉ぢやま？。と思はづ言つてし  
まつた。おねだりして一枚おいて行つていた。本舎へ行  
くと太一がなつて、お食事になつてしまつた。ゆつくりお送  
りすることができなくてつまらなかつた。夜のたのしい  
自由時間にあみものをした。

三月十二日(月)晴風

今日はとても風が強かつた。朝、お風呂の水くみをした。一時  
間目に警戒、警報になつた時の出口の事や、お勉強する



鬼ごっこ

は所をきめていた。三時間目  
の体操の時、鬼ごっこをした。岩丸先生  
に追まはされてしまつた。追まはせ。  
追まはせ。たほれるまで追まはせ。  
と言ふ聲が追つかけてくる。目がくら  
くらとして、どうどうたほれてしまつた。  
それからかいせんをした。とても体が  
暖くなつた。やうしてお晝のお食事  
がとてもおいしくいたげた。午後お風  
呂にはいつた。おゆのかげんがちよつど  
よい。又私たちが水くみしたのだと思ど  
よけいよい氣持がよかつた。五時間目、園  
舎のうらでエ作をした。紙はさみを



こいした。一生懸命きれいになるやうに作つた。さのふ  
かけなかつた日記を書いた。夕方になつたら少し風がおさ  
まつたやうに思はれた。夜の自由時間で先生といつしよに  
らんさんやでんはうなどをしておもしろくたのしく  
遊んだ。

三月十三日(火) 曇

今日は朝から曇つてゐても寒かつた。でもこれくらゐ  
戦地の兵隊さんの事を思ふとしぜん肩のあがつてゐるのが  
さがつて来た。二時間目のお習字で扇の的弓流しの扇の的  
の三字だけ練習した。一生懸命練習したがどうも扇と  
いふ字がうまく書けなかつた。三時間目に振子時計の所  
をあらひした。イタリヤの學生が振子を發見したお  
話であつた。午後の音楽で必勝歌を音楽帳にうつした。

鶏



日記を書きながらちよつとすぬじ  
場の方を見ると鶏が松の木の下  
で遊んでゐる。それがなんと言へ  
なく可愛く見えた。時々せん鳥が  
「ケーコッココッコ」と鳴く。すると  
今までゐなかつた一羽のめん鳥がど  
こからか姿を見せた。夕食はお部  
屋の中でおいくたのしくいたが、夜  
の自由時間に高田先生とみんな  
できのふのやうにおもしろく遊ん  
た。床の中で考へた。何だか今日一  
日も鶏が目についてゐたやうに思  
へた。



三月十四日(水)曇

今日も曇ってゐて本當にいやなお  
天氣であつた。一時間に林の中へ行  
てたき物集めをした。河井さんとは  
はらを持つて行つた。落葉を集め  
たり枯枝をひろつたり松ぼっくり  
をひろつたりたくさん集つた。林の  
向かふにテントが見えた。さう木  
林の木の間から黄色のテント。一時  
ちよつと見とれてしまつた。何と  
も言へない感じがした。何だか憂鬱  
と言ふ感じもした。二時間目久しう  
りで算數があつた。一生懸命した。



午後五時間目に体重よく定に行つた。今まで30.2  
ふへた。高田先生はちやうど私の倍あつた。30.6に

それから、歸つてから日記を書いた。葉書を書いた。  
夕食はお座部の中でいた。自由時間にむんば  
うをしてあそんだ。とてもおもしろくあそんだ。

三月十五日(木)曇

今日は朝目がさめると、高田先生が四年生よく見てをを  
きなさい。今日は朝もやがかつてゐます。とおつてやつたので  
ごめいさつこの時向かふの松林を見た。本當に先生があつた。  
やつたとほり松林がかすんで何とも言へない感じがした。  
お父様お母様お早やうございます。と言つた時サイレン  
が鳴つて警報が発令された。私たちはすぐごさへ机やい  
すをはこんだ。お食事はこのまはりでした。





お勉強はごうのまわりであつた。  
 國語の時、宗子さんがけんきゅうな  
 った、羽族館を見學して、といふの  
 を見せていただいた。いろいろめずら  
 しい魚や水草、海草などがあつた。  
 三時間目にお風呂へはいった。何だか  
 今日はいった氣がしなかつた。お裁  
 縫の時、有賀先生が「明日、あなた達  
 はお引こしです。」とおつしやうた。私  
 たちはもちろん三年生も本當にび  
 つくりした。三年生からはいろいろと  
 可愛お手紙が来る。さうしてポケツ  
 トはお手紙で「はいになるほどだつた

夜病室にいらつしやる乙葉さんや西村和子さんが遊びに  
 いらつしやうた。さうしておみやげまで下さつた。たのしくら  
 かんさんやでんぱうをうして遊んだ。床につくと、これが女學  
 校で最後の晩だと思ふと悲しかつた。

三月十六日（金）晴

今日はいよいよ療舎へお引こしである。朝會がすんです  
 ぐ女學校へ行つて荷作りをした。高田先生も手傳つて下さる。  
 何だかうれしくつて飛はねたくてくたまうなかつた。二部  
 五年の方がおふとんを背負つて行つて下さつた。午前中は  
 村野さんのお家で荷物をかたづけたり、ふるしきをほど  
 いたりした。午後は有賀先生のお荷物を河井さんと二人で  
 荷物持つて行つた。さうして荷物があちつくとき、私はほつと  
 歸る途中、眞正面から強い風が吹きつけるので目もあけて





よいしよがんばれ

おられない。又時々息も出さないほどだった。夕食が終ると四年生はすぐしたくをして並んだ。何だかしんせきのをば様の所へでもおとまりに行きやうな氣持になつてしまつた。夜の自由時間に五年生の方にお手洗ひを申しへていただいた。さうして四年生五人ででんばうやらかんやんをして笑ひころげてしまつた。寝る時も五年生の方はとても親切にして下さつた。本當によいお姉様だなあ。と思つた。

もう春ね



三月十七日 (土) 晴

今日は朝とてもねむかつた。本舎へ来る途中けしきがきれいだった。五年生の方があれはちふれん山といふのよ。とおしへてくださつた。何だか目さへはなすのがいやだった。お洗面の時松の本のみきにか愛うぐいすがちよこちよこ歩いてみた。もう春だと言ふ事が又心の中へはいつて行つた。午前中落葉集めた。四年生五人で一しよに集めた。どんどん集るのでおもしろいほどだった。そして五つ落葉の山ができた時みん

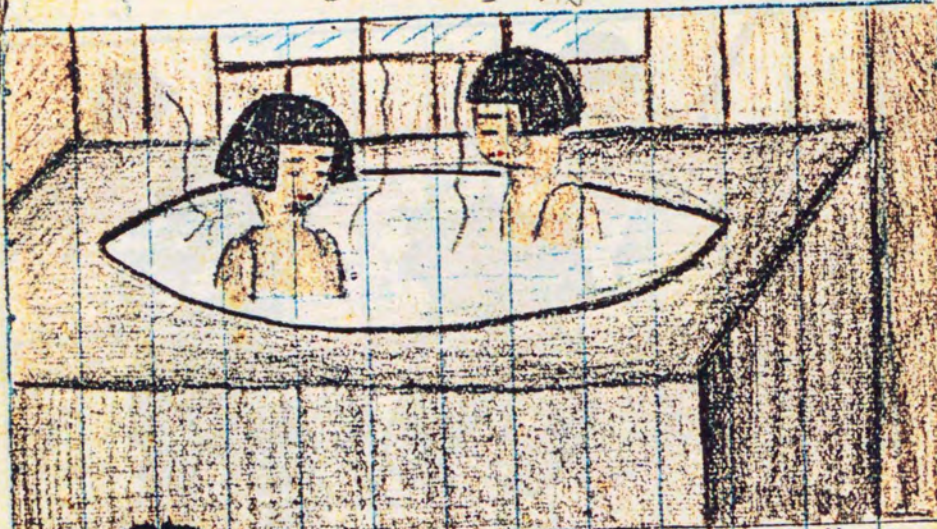


な持てるだけ持つて小屋に運んだ。菅村先生がよく集めたなあ。」とおつしやつた。私たちが集めた落葉が小屋の中にはいになつてゐた。午後は自由だった。さのふ書けなかつた日記をずつと書いてゐた。夕方寮舎へ歸る時三年生が女學校のふんがはで「やうなうく。」と手を振つてゐた。私も手を振つた。夜、三年生が作つて下さった紙人形で平松さんと遊んだ。とてもけむかつた。

三月十八日（旦）晴 風

今日は五年生の面會日。五年生の方はとても大荷物。朝、こちらへ來ると三年生が「お早やうございませう。」と垣の所へ走つて來た。私たちも言つた。午前中日向で宗子さんや中川さんたちと日記を書いた。今日もお天氣で五年生の方の面會にはちようどよいだらう。

湯のおいよ



日記の字を書きあげた時神尾先生が「お風呂ですよう。」とおつしやつた。私たちはすぐ用意した。本當によいお湯だった。もつとはいつてゐたいくらいだった。お晝に久ぶりでふりかけをかけた。いたづいた。とてもおいしかった。午後警報が発令された。すぐかいぎよになつたと思つたら又發令された。それから風が強かつたのでお部屋の中で葉書を書いた。おひつこの時のことやいろいろなことこちらのやうすをくわしく書いた。歸る時お姉様からお手紙が來た。とてもうれしかった。



夜の自由時間に崇子さんや河井さんとトランプをした。何  
だかおかしくつてげらげら笑つてしまつた。ラジオで落語  
があつたので聞きながら目をつぶつた。

三月十九日（月）晴

今日は午前中作業であつた。私たち四年生は畠の道の區  
べつをつけるお仕事だ。鋤でなはにそつて少しづつ掘つて  
行く。鋤をあまりつかはなかつたのですぐつかれてしまふ  
でもがん張つた。一生懸命してゐたら後の方とぶつかりさ  
うになつてしまつた。少ししたら先生が休せて下さつた  
又一生懸命に氣持を取りなほして鋤をにぎつた。汗が  
ひたひににじんだ。暖い日光が働いてゐる私たちの背中を  
照らしてくれるので。作業が終つてから、崇子さんとふき  
んのおせんたくをした。私は二枚崇子さんは三枚だつた。



途中でお食事になつたのでバケツ  
につけたまゝで行つた。働いたあとな  
ので本當においしかった。又おせん  
たくのつぎきをやつてゐると石田先  
生が急に仲良くしませうね。と私  
たちの顔をのぞきなつたのでび  
くりしたらうつく下を洗ふことだつた。  
先生のだからと思つて一生懸命した。  
それから日向に干して日記を書い  
た。日記が終るころにはもうつかは  
てゐた。真白なおきんを見た時は  
本當にうれしかった。



音楽



三月二十日(火)晴  
 今日朝起床の時床をたぐんでみると高田先生が今朝竹やぶでうぐいすが鳴いておましたよ。とあつしやつた。そして外に出て待つておると、チユウチユウ。と言ふ小鳥の聲にまじつてうぐいすの可愛聲。朝會の時警報が発令された。すぐたいひした。Bの機であつた。かいぢよになつて三時間、日向で女学校のしゅく舎の事や私たちの寮舎の事をいろいろお話した。三月三は夜勉強のお時間がある

るさうだ。私はそれがうらやましかつた。音楽の時必勝歌の二番三番をうつした。途中で又警報が出た。ごうのまわりで崇子さんと河井さんと賣りやごうこをして遊んだ。とてもおもしろかつた。夕食のあとでハリバを二つづいた。夜の自由時間とてもいけむかつた。みんな泣いてゐるやうに涙を目につけてゐるやつやつた。外へ顔を出したらうやつと一息つけた。ラジオのほうでけきをきいたがういつのまにかおむつてしまった。

三月二十日(水)晴 春季皇霊祭

今日は春季皇霊祭。おひがんである。村野さんのおうちでは早くからお餅つきの音が歌のちようしでも取つてゐるやうに氣持よく聞えてゐた。今日は私が雨戸を開くお當番である。かさをのせるたにのつて、雨戸を入れた。思つたよ





りよくはいた。朝お風呂當番だった。  
まきこをひろひに行ったりお水をく  
んだりした。先生が落葉をたいてお  
て下さいとおつしやつたのでたきつけ  
てみた。午前中も午後も授業がな  
かった。午前中日記を書きあげて  
午後おせんたくをした。一生懸命こ  
すると真白になつてとても氣持  
がよかつた。三時の報道で硫黄島  
玉砕の事を發表した。ちようど  
お洗たく物を干してゐる時だった。  
玉砕。といふ一言を聞いた私はし  
らな。あひだに氣つけの姿せいに

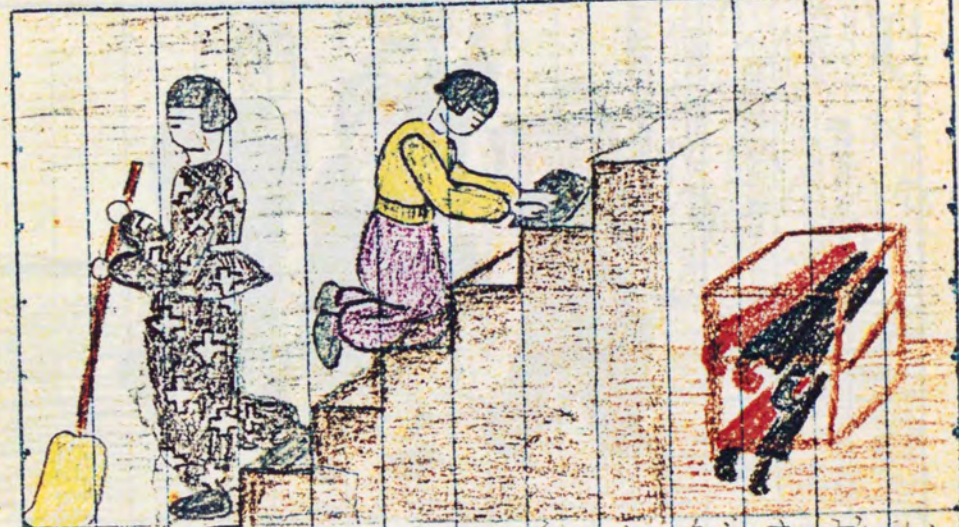
なり頭をうなだれた。そしてひとりでにくらしいく  
敵。日本の兵隊せん本當にく有がたうございました。  
とひとりごとを言つてしまつた。私の心はにくらしい。ど  
いふ事が胸いっぱいだった。もつともつとりつはな強い日本  
の少國民にならなければならぬ。そしてこの大東亞  
戦争に勝ちぬかう。夜のお食事はおせき飯だった。  
硫黄島が玉砕したといふのに私たちはこんなおいしい  
御飯をいたげけるの。は本當に有難いと思つた。

### 三月二十日(木)晴のち曇風

今日は私のお當番だ。朝床をたふさないで階段のお  
掃除をした。野村さんとつしよに一生懸命はいたり  
ふいたりした。なるべく早くしやうと思つたがどうどう  
皆さんをおまたせしてしまつた。今度からは早くしたい



除掃のお階段



と思った。朝會の時岩丸先生のお  
 話によると硫黄島ではもう水一つ  
 きもなくなつてしまつたと言ふこと  
 だつた。兵隊さんのためにもくたうを  
 した。午前中、島をたがやす作業だ。  
 私たちは鍬やしゃべるでかはりはん  
 こにたがやした。はだしになつてもん  
 のすそをまくつて一生懸命たがやし  
 た。鍬やしゃべるが供へない時には土の  
 かたまりをつぶしてこまかくしてゐて  
 時も休ないでした。はだしになつた  
 時の氣持は何とも言へなかつた。午  
 後は自由ごつたので日記を書きぬ

るとなまめくる風がまゝをなでた。それから風がとても  
 強くなつて來た。私たちはすぐお部屋の中へはいつた。  
 しばらくすると橋本さんのお姉様やお母様がいらつし  
 やつた。そしてえん一疎開をなさるやうだ。又人数がへつてし  
 まふ。つまらない。お歸になる時はいつまでもいつまでも  
 ややうなう／＼。と言つてお見送りした。どの所へ  
 何かこみあげて來て聲が出なかつた。夕方廢舎へかへる  
 と雨戸がしめてあつた。村野さんのお家の方がしめて下  
 さつたのだ。とてもほこりがひどくて何度もうふいたり  
 はいたりしたが二三日足あとがつくほどだつた。

三月二十三日(金)晴のち曇

今日朝會のあとで先生方の會義があるので私たちは  
 しばらく日記を書いて自習してみた。ちやうど日記を書きあ





けた時先生方の會義が終つて集合  
五分前の知らせがあつた。終業式  
である。服裝をどのへて式場には  
いた。主事先生のお話では紙が他の  
方へまわされてないので終業しよう書  
は毎年のやうにはなかつた。六年生  
がいうてやらないので何だがさみし  
かつた。午後は皇の掘かへした。  
一生懸命した。はだしになつて力を  
いれるとすぐあつくなつてしまふ。  
いさうくすると一部四年の方がお風  
呂にいらつしやつた。私は一部四年の  
方の分もかゝ張らなくてはと思つて

一そう力を出してやつた。作業終りになつたので井戸で  
足と手を洗つた。つめたくても氣持が良かった。  
それからシャツと下はきをお洗たくをした。ハンケチ  
やガーゼはすぐかはいてしまつた。眞白になつてゐるハン  
ケチをポケットに入れた時は本當にうれしかつた。夜  
の自由時間にくつしたのつぎをした。じゆう寢用意になつ  
たので外のお手洗ひへ行くと歌の聲がしたので通りへ  
出て見ると菅村先生を三部六年の人たちが本舎へ送  
つて行く所だつた。先生はこんど仙台の方へいらつしやる  
さうだ。そして終業式のあとでお別れのお式があつたのだ。  
私はさやうなら〜と手を振つた。先生はけい禮を  
なさりながらさやうなら元氣でやりなさいよ〜と  
おつしやつて竹やぶの方へ姿がかくれてしまつた。





三月二十四日(土)晴、4曇雨  
 今日朝とまではせんざいのかきもの  
 所で日向ぼっこをした。とても暖く  
 てうっかり目をつぶるとうとうとくし  
 さうだった。午前中お米運びた。リ  
 ダサックを背つて出かけた。阿部  
 先生にお米をいたがいてリュックを背  
 った。この前の時よりは重かったがこ  
 れを私たちがいたぐくのだと思ふと  
 うれしかった。道にこぼれてゐるお  
 米を崇子さんや中川さんがひろつて  
 いらつしやつた。私もこれはよい事だ  
 と喜んでひろつた。二きりほど二に

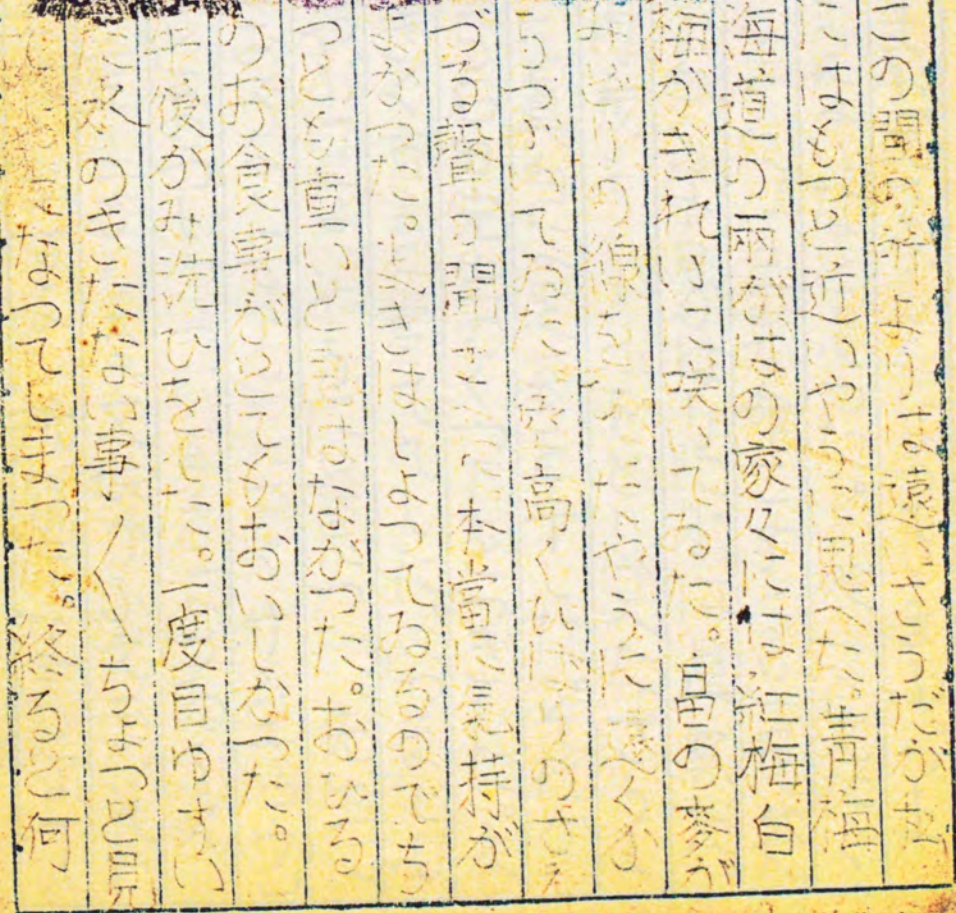
れておたのをひろつた。歸つてからそれをききこれに洗つた  
 動たあとなのでお晝食がいてもよいしくいたがした。  
 午後お風呂にはいつた。先生もはいつてくださり体を  
 それいに洗つてくださつた。よいお湯、よい氣持、よい先  
 元に洗つていたがく。本當に有難いと思つた。夕方小  
 雨が降つて来た。宿舎へ歸る時は降つておなかつたが宿  
 舎へいたら大分降つて来た。

三月二十五日(日)晴

今日はきのふ雨が降つてゐたとは思へないほどの上天氣。  
 本舎へ来る途中畠道の所へ富士山が見えた。青い春  
 の空にくつきりと眞白な富士山。富士山はいくら見ても  
 見あきない山だ。もつともつと眺めてゐたかつた。が列が進ん  
 で行くのでしかたがなかつた。午前中一まき運んだつた。



( )



だが頭がなるな。二、三回洗った。日向で日記をつけ  
た。それから、来るまで、ここの一、二をみた。コンビ  
ネーションが大きくて、さみから洗つてよいかわからな  
かった。夜なかく、電氣がこたふつた。

三月二十六日(月)晴

今日(けふ)は光子姉様が女學校の園へ來るとこの間の葉書に書いてあつた。うれしくて／＼たまらなかつた。午前二時(ふたご)に書くと自由だった。日向で日記をつけた。一ぱう書いてはまだかと思つて待つてゐた。どうく午前中はいらつしやうなかつた。もうあきらめたいと思つたがときどき垣を見てため息をついてしまつた。入江さんのお母様がいらつしやつて入江さんはえんこ疎開をなさるさうだ。妹のやうに思つてゐた四年生が又一人へつてし



輪 なげ



まふ。又さびしくなつてしまふ。つま  
らないなと思つた。千代のせんだく  
をした。一三懸命にすると足袋  
が白くなるかはりに水は眞黒だ。  
何度か水をとりにかへたやうし  
て眞白な足袋を千した。それか  
ら石田先生のくつ下をつぎした。太  
きく布を當ててした。いつまでも  
やぶけないやうにと思つた。先生に  
おかげしするのとおもふ。サキユウ  
とおつしやつた。今日はあつたふん  
三年生がくる。又妹がふえる。それ  
でいふ。千代様にならうよ。

ないけない。しつかりとやせしよ。お姉様にならう。  
橋本さんのお姉様がいうつてゐる。純子さんがおた  
ちにときれいな千代紙をくだした。今ごろどんな  
事をしてゐらうしやるかなと考へた。皆輪なげをお  
もしろさうにやつてゐた。おもしろなやつた。  
夜あみ物をした。どうく今日はいつしやらなかつた。

三月二十七日(火)晴

今日は午前中まき運びだつた。をどつちの所よりは近  
かつた。高田先生に背負はせていたと、うなを胸の  
所でじつかりむすんだ。並んで島道、青梅海道を歩  
いた。背中のまきが傾いて困つた時、有賀先生がなほ  
してくださつた。それからともかゝるくなつたやうに思  
はれた。あつた。あつた。女学校の宿舎が見えた。かがぐつと

(赤い屋根の)





半で来て今まで重かった足が急に  
軽くなつてどんく歩けた。歸つ  
て顔や手を洗つた。本當によい氣持  
だつた。午後お風呂にはいつた。働い  
たあとの汗を全部おとしてしま  
ふととてもさっぱりした。お風呂  
から出たら何だか体がたるくな  
つておむくやつてしまつた。三年生  
が可愛く元氣に鬼ごっこをしてぬ  
る。山口先生も一しよになつて。  
何て可愛のだらう。これから私が  
この可愛族のお姉様になるの  
かと思ふとうれしかった。

石田先生にお話をしていた。お話を  
うかつた。

三月二十八日 (水) 晴

今日は午前中作業だつた。じやがいもの植つけだ。はじめ  
に畝をたがやしそこへみそを掘つた。そしてたねいも  
を置いてその上にたいひを入れた。さうすると先生  
が土を上手にかぶせてくださる。私たちはたいひを手  
でつかんでどんく運んだ。これが私の口にはいるのか  
と思ふとうれしい。何だか私がお百しようさんになつた  
やうな氣持になつてしまつた。つめたい水できれいに手  
足顔を洗つた時は何とも言へなかつた。働いたあとな  
のぞおいしくお晝食をいたづいた。おかわだつた。いつも  
よりぐうぐうおいしくいたづいた。午後は自由だつた。





滝沢さんのお母様がいらつしや  
った。日記を書きあげてから毛  
糸で針を縫うエエことしうへた。  
夜席を歸つて自由時習に糸子  
さんや河井さん達とトランプをし  
て遊んだ。ほうずめくりだ。あは  
れて大笑いになつてしまふ。時の  
たつのもわからなうでどうどう  
エエこともあつた。  
三月二十九日(木)晴風  
今日は朝國會へ来る途中、麥島  
の所で先生が先づ先づ見てご  
らん。ごまつしやつたので見ると



まんまるいすきとぼつた小やい  
可愛露がついてゐた。朝會の  
あとで高田先生のおともをし  
て郵便局へ行つた。青い空を  
あはき廣々とした麥島の島道  
を歩いた。ひばりが空高く舞あ  
がり、さへづつてゐた。本當に氣持  
がよいお天氣。五年生五人と先  
生とおべんたうを持つて行つて  
島の寺で食べてみる。いなあとい  
ふ。午後三時と今更が強くはつ  
た。来た。作つて洗つた。から  
て日記をくお家へ歸る。



トランプをして遊んだ。廣のお母様が正面から吹きつける風に目もあはさずはいくかおだった。

三月三十日（金）晴

今日は朝食の後お風呂に入ると警戒警報になつた。すぐ防空服裝をしてこのまわりへ行つてみた。B29一機でうきかいがよになつた。それから日向に行つて日記を書いた。ふんぴつをにぎつてゐる手のひらにあせをかくほど熱がつた。一生懸命書いてゐると神尾先生が「二部四年お風呂です。」と門の前からおつしやつた。私はお机の所にうつしやる皆をおまじひして行つた。一番だったとしてもよいお湯で出たくなつた。すむひりあつた。お晝の御飯はあらうやつたりしてとても気持ちがよかった。お晝の御飯は



いしいおにぐの御飯だった。兵隊さんの事を思ふと私たちがこんなところにくる安心してゐるのが本當に有難いと思つた。午後日記をつけてからお家へ葉書を書いた。こちらでは元氣だから安心して下さいと書いた。そして葉書にこけし人形の写真を書いて出した。夜の自由時間に笑をしてころろと遊んだ。おもしろくトランプをして遊んだ。今日はおが班長と今まにぐたりよい事がたい作つて洗った。今夜もでもよくお家へ歸る。





三月三日のお母様  
今日は朝の書斎の時向かいの方  
がかすんで見えた。生ある  
れ朝もやと言ふので聞くと  
えっさうです。坂子時計の所で出  
て来たのは夕もやと言ふので聞くと  
とおつてつた。二軒中書斎のつは  
事だつた。歎を言けりかどで掘つ  
て道をつけた。一生懸命するのとど  
んく山来て面白いやうだつた。  
寺や顔をきれいに洗ふとしても  
さつぱりして氣持がよかつた。午後  
は村野さんの所からお大根を運

んで来た。八百屋さんの所から書の中へはいつていつた。  
桑島の中を通つて大根を両手でしづかり赤ちやんを  
だくやうに持つて歸つた。毎日記をつけてかう毛糸の玉を  
こしらへた。今日は私が食事當番だ。こからのおひつや  
をけを中川さんに持つて行つていたが、私が一つも持つ  
て行かなかつた。本當にいけない事をしてしまつたと思ふ

四月一日(日)晴夕方から風

今日から四月だ。この間の月よりはもつとよい子供で生活  
して行かう。朝黒はんにやい疎開の事について書いて  
あつた。皆、黒はんをとりまいてわい、さはいでゐる。私  
は見に行かなかつたが皆の話を聞くと今日お母様方  
がいらつしやつて荷物をだいたひ作つて洗たく物を持  
つて私たちちといつしにしばらくお家へ歸るのださうだ。



お母様がいつしやる。どんどんと。  
主事先生のお話があつた。高田先  
生のお家のすぐそばだ。おち  
母様がいつしやらない。うちはおち  
ついて日記も書けない。あんまり疎開  
か集團疎開か。胸がどきどきしてゐる。  
お母様がいつしやつた。私は集團  
にはいることになつた。お晝食を  
いたゞいて療舎の方へ行つた。早く  
歸りたくて。たまらなかつた。  
やつと荷物のをりがついた。リュツ  
クを背負つて。ふろしき。ぎづみを持  
つて行く。うれしくて。びよつて歩

いた。電車にのるのも楽しい。何もかもみんな楽しい。  
下落合でをりてえき。のまわりをみわたした。何にも  
前とは少しづつかはつてゐるやうに思はれた。歩くつば  
つぽ。家に近いなるのかと思ふ。うれしい。どうもく  
家の門が見えて来た。玄關のべもをあすとなつた。いい  
お姉様が出ていつしやつた。お父様に飛びついた。何だか  
まぶたがあつくなるのを感じた。すぐ手を洗つて。ア  
ノにかじりついた。ササネなどすわり忘れてしま  
つてつかへてしまふ。お家。いたゞくお食事などめづ  
らしくて。かへつておいしくいたゞいた。夜久し  
ぶりに母様とおふろにはいつた。さうしていつしよに  
寝た。夜中にぐうしい。B29の空襲があつた。かへつ  
て来た。さうくしやくだ。なと思つた。



今日はお家へかへつて第一目だ。  
朝とてもねぼろをしてしまった。  
午前中おとなりの佑子ちゃんと  
くしぶりでおもしく遊んだ。  
家の前の道で賣屋さんごつこ  
をした。ちんちようけの花やだ  
るまの實などを箱の上にのせ  
て賣屋さん。とてもおもしく  
一時をすごした。午後日記を書い  
てお野さいをお母様といつしよに  
取りに行つた。くしぶりでめづ  
らしく思つた。皆屋さんのをば

四月三日(火)晴神武天皇祭

064



んで ~~は~~ ばくたんの おちた所の  
あなを ~~見て~~ 見て来た。にくうしい  
療舎へ着いて中川さんと園舎  
へお米とおたくあんを取りに  
行つた。高田先生もいらつしや  
つた。歸りとても重かつた。  
こんな物が重いやうになつた。  
お家へ歸つてゐて弱虫になつ  
たのではないのかと心配した。  
自動車の運てん手さんが荷  
作りして下さつた。力持だな  
と思つた。

敵

四月四日(水)

今日は西塚亨先生がいらつしや  
つた。午前中は信夫ちゃんもい  
つしよにトランプをして本當に  
たのしく遊んだ。日曜學校か  
ら色紙や千代紙をたくさん  
いただいた。たくさん先生に疎  
開學園の様子をお話した。  
たのしいえんげい會。畠のお  
仕事。――  
午後ろ日記をつけた。り。ア  
ノをいいて遊んだりした。ちよ  
うどお魚の配給だつた。



夜初枝さんと正美ちゃんが私の顔が見たい  
と言つていらつしやつた。犬きくなつた。いど  
私の手を取つておつしやつた。ちよつとはづかし  
いやうに思つてしまつた。七日のお晝にいらつし  
やいとおよばれになつた。おそくなるのでおか  
へりにならないうちに床についた。

四月五日(木)

今日は朝床屋さんに行つた。もとパリーヂヤ  
ンと言つてゐた所がいつのまにか「山崎」と言  
ふ床屋さんになつてゐた。女の人がかつてくれた  
ぶおぶん持つたので家へかへつたのはお晝近かつた  
私がゐない時に西塚先生が二時ころ遊びにいらつ  
しやいとおつしやつた。お晝のこはんがす

んでから少しして西塚先生  
の所へ行つた。途中で家を  
こはすのを見てしまつた。ぐら  
くどゆれたかと思つたらへ  
シヤンとつぶれてしまつた。あと  
のほこりのすごい事。もうく  
とたつえんまぐみだつた。  
お家へつくと利子先生が出て  
いらつしやつた。そして明子ちゃ  
んや眞佐えちゃんにお手紙  
を書いた。そしてとてもたの  
しい一時をすごした。いろいろな  
物をいたがいて家へ歸つた。



四月六日 (金)

今日は由紀子姉様の電休日で工場がお休み。  
朝食の前にニアノをいいてみた。もうすぐこの  
ニアノともお別れ。さう思ふと少しでもにくさん  
ひいておきたいと思ひ休むまもなくいいてみた。  
光子姉様も學校はお休みなのだ。おやささ  
の方からはほう  
きの音。おえん順  
からはしんぶんを  
續んでいらつしや  
る紙の音。本當  
に朝は氣持が  
よい。

四月七日 (土)

今日は井戸で顔を洗つた。つ  
めた水で氣持がよかつた。  
お食事の時けいかいけいほ  
うが発令された。B29数へん  
隊だ。すぐ用意した。そして  
空を見てみた。やがて高射砲  
が鳴りなした。私は塹の中へは  
いった。外へ出て見ると白く光  
つたB29がきりもみになつて  
落て行く。いいきみだ。と思つた。  
白い飛行機雲が青い空にくつ  
きりとひかれてみた。



おひろに内山さんにおよばれ。おいしいごちさ  
うをたくさんいたがいた。又お食後にはめづら  
しいおやつをいたがいた。何だかとてももつた  
ないと言ふ氣持でいっぱいだった。